

古文 読解問題 「宇治拾遺物語」児のそら寝」①

今は昔、比叡の山に児ありけり。僧たち、宵のつれづれに、「いざ、かいもちひせん。」とア言ひけるを、この児、心よせに聞きけり。さりとて、^①し出ださんを待ちて寝ざらんも、わろかりなんと思ひて、片方に寄りて、^②寝たるよしにて、出で来るを待ちけるに、すでにし出だしたるさまにて、ひしめきあひたり。

この児、さだめておどろかさんずらんと、イ待ちゐたるに、僧の、「もの申し候はん。おどろかせたまへ。」と言ふを、うれしとは思へども、ただ一度にいらへんも、待ちけるかともぞ思ふとて、いま一声呼ばれていらへんと、念じて寝たるほどに、「や、な起こしたてまつりそ。ウをさなき人は、寝入りたまひにけり。」と言ふ声のしければ、^③あな、わびしと思ひて、いま一度起こせかしと、思ひ寝に聞けば、ひしひしと、ただ食ひに食ふ音のしければ、ずちなくて、無期ののちに、「えい。」といらへたりければ、僧たち笑ふこと限りなし。

問一・次の文は「宇治拾遺物語」について説明したものである。空欄に入る言葉を語群の中から選びなさい。

「宇治拾遺物語」は（ア）時代初期に書かれた（イ）文学（集）である。作者は不詳で、『宇治大納言物語』に入らなかつた（イ）がまとめられたものだとされている。後世にも影響を与え、（ウ）が書いた「鼻」は「鼻長き僧の事」から着想を得たとされている。

【語群】

・平安・鎌倉・室町・物語・説話・隨筆・芥川龍之介・夏目漱石・森鷗外

問二・傍線部ア～ウの現代仮名遣いに直しなさい。（ただし、漢字は平仮名にして表記すること）

問三・傍線部①「し出ださんを待ちて寝ざらんも、わろかりなんと思ひて」を現代語訳しなさい。

問四・傍線部②「寝たるよし」とあるが、なぜ児はそのような行動をとつたのか、その理由として最も適切なものを次のの中から選びなさい。

- ア. ぼたもちが出来上がるのを待つて、寝ないで起きているのはよくないと思つたから。
- イ. たくさんおいしいものがある中で、僧たちが作るぼたもちに期待できなかつたから。
- ウ. ぼたもちを食べたいと思いながらも、僧たちの騒ぎに巻き込まれるのは嫌だから。
- エ. 決まった時間になつたら寝なくてはならないという決まりがあつ

問五・傍線部③「あな、わびしと思ひて」とあるが、なぜそう思つたのか答えなさい。

読解問題「宇治拾遺物語「児のそら寝」」① 解答・解説

問一・ア 鎌倉 イ 説話 ウ 芥川龍之介

問二・ア いける

文の先頭・助詞以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」に変換する。

イ まちいたる

：「ゐ」は「い」に変える

ウ おさなきひと

問三・作り上げるのを待つて寝ないのも、よくないだろうと思つて

問四・ア

問五・僧にもう一度呼ばれたら返事をしようとしていたが、それを別の僧に止められてしまったから。